

「ふつうの暮らし」を地域の方に



「ふつうの暮らし」を地域の力に

「あたりまえ」が息づく里

—池田の「農村力」—

顔が見える「お互いさま」の時代から、匿名で経済効率優先の時代へ……。便利で豊かな社会生活を手に入れた代わりに、私たちは、その土地古来の技や知恵、味わい、文化などを置き去りにしてきました。

現代の社会で起きる様々な「歪み」を見るに付け、あまりにも大きな代償だったと言わ

ざるを得ないでしょう。

人が社会の中で生きるということ、今一度問い直す。その鍵を握るのが「農村の力」ではないかと、私たちは考えています。

私たちが何気なく生活する、この山里での暮らし方そのものに、現代の社会への癒しのヒントが隠されているのではないかと。



池田町には、これといって特別なものはありません。一流の名勝も、高級な食材もなく、著名人もおらず、有名な観光地也没有ありません。

それでも、現代の日本人が見過ごし、失いかけた「普通の暮らし」「あたりまえの営み」「いつもの景色」が、いまなお息づいています。

これこそが、私たちの宝ではないだろうか。

今、池田町全体で、この「何気ないこと」を「宝」と感じ、未来へつなげようという活動が、様々な形で展開しています。

農業や環境の取り組みの中で気づいてきた力をデザインし、食・観光などにも活かしていきます。



「米」は「ごはん」なんです ー風土料理への取り組みー

農業は、農作物を作り流通させるということだけで完結するわけではありません。その先に「食」があります。

たとえば、「米」は「ごはん」として人びとの口に上って、作物として輝いてきます。

池田町では、農業は、広く「食」を含めたかたちで捉え直しています。

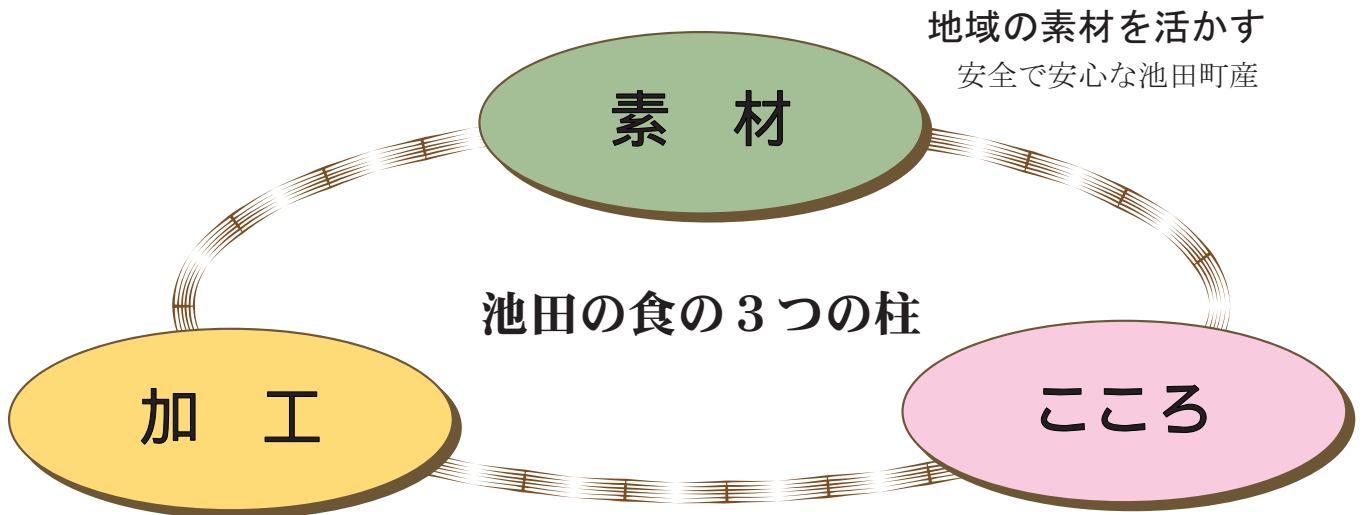
環境からの切り口でいわれる「地球と体にやさしい」だけでなく、「心の健康」のためにも、文化的要素をも含めた「食」の要素が大変重要であると考え、池田町の生活文化、昔から伝わる暮らし方そのものの中での「食」を見つめ直そうと提案しています。

それが、池田町の「農村力」を活かした「風土料理プロジェクト」への取り組みです。

これは、素材のおいしさをそのままにして、余分な添加物を使わず、地域の風土を活かし、「ありがたい」「もったいない」心や「食べてくれる人の笑顔」を糧とした「おもてなしの心」で料理を提供するというものです。

町内では現在、冠荘、ファームハウス・コムニタ、おもちの母屋（ままや）などで供されているほか、福井市のこっぽい屋での総菜などでも展開しています。





地域の素材を活かす
安全で安心な池田町産

素 材

加 工

こころ

地域の風土を活かす
化学調味料や添加物を使わない料理

ホスピタリティ
ありがたい心、もったいない心、
おもてなしの心でお迎え



人と社会を癒す里で学ぶ —日本農村力デザイン大学—

池田町全体をフィールドとして、「農村力」をキーワードに、人と社会との「あたりまえ」の関係を世界に問いかけ、学びの場を提供しているのが、「日本農村力デザイン大学」です。

日本農村力デザイン大学では、農村力を、「人の力」「時間の力」「場の力」「技術の力」「自然の力」「文化の力」「相互扶助の力」で構成される「人と社会を治癒する力」と定義し、年間数回に分けて講座を展開しています。



風の課 —智に学ぶ—

智恵と人間味にあふれる講師を各方面からお迎えし、農村力を「知恵」と「情報」の両面から学びます。

【講義例】

農村文化探求論・農業経済論・地球環境論・農村力分析論「これが農村力だ」・農村環境論「農村の暮らしと環境」 など



土の課 —情熱に学ぶ—

地域や現場で実践活動をしているスペシャリストを講師にお迎えし、経験を聞きながら、農村力の「工夫」と「情熱」を学びます。

【講義例】

人情関係学・行政巻き込み学・結（ゆい）学・コミュニケーション雑学・リーダーシップ発揮学 など



美の課 —デザインする—

「風」「土」の課で学んだ農村力を活かすための構想（デザイン）について学び、企画力、創造力、実践力を身に付けます。

【講義例】

地域デザイン術・起業デザイン術・農業ビジネス術・レクリエーション術・農村力ベンチャービジネス術・グリーンツーリズム術 など



人の課 —人を結ぶ—

受講生や講師をはじめとする様々な人との豊かなコミュニケーションの中で、人について学び、ネットワーク力を養います。

【講義例】

グループ研究・研究発表・夜なべ談義・グループ討論・大学祭（模擬店） など

年間カリキュラム

開催月日	テーマと講師	講義内容
9月学期	「日本人に足りない日本を考える」 結城登美雄氏（民俗研究家）	「地元学の魅力と可能性」 「実習」（見失いつつある「日本」を探す） 「『豊かな』社会に向けて私ができること」
11月学期	「『百姓』の視点でグローバル社会を考える」 宇根 豊氏（自然と農の研究所代表） 天笠 啓介氏（ジャーナリスト）	「みんなの百姓学」 「種から考えるアグリビジネスの世界戦略」
12月学期	「『おいしさ』と農村の力のいい関係」 塩川 恭子氏（食の学校代表）	「雑穀の魅力と可能性」 「食のおいしさ・素晴らしさ」
2月学期	「形の見えないもののデザイン」 鈴木 輝隆氏（江戸川大学教授） 梅原 真氏（デザイナー）	「『こと』をデザインする人たち」 「思いをデザインする」
4月学期	「農村力を構想する」 山田 晴義氏（宮城大学教授）	「農村力を活かした挑戦」 「終業発表」



池田を支える人の力



仲間とともに

一池田町環境関連団体紹介一

特定非営利活動（NPO）法人環境Uフレンズ

【活動目的】

生ゴミのたい肥化事業「食Uターン事業」において、各集落のゴミステーションから、生ゴミの回収作業を行うスタッフとして、ボランティア（自発的な意思）で参加したメンバーが集まった組織です。さらに、生ゴミ回収だけでなく、広く地域資源循環型社会をつくるための実践活動に貢献することを目指しています。

【概要】

設立:平成15年4月 会員:72名（理事5名）

【活動内容】

1) 食Uターン事業（回収活動）

町との業務委託契約に基づき、毎週月・水・金曜日に、生ゴミ（食品資源）を回収しています。回収は「あぐりパワーアップ号」という専用回収車を利用して行います。

2) エコステーション管理事業

エコステーションの管理のため、食Uターンの回収時に、ステーションにたまったペットボトル・空き缶等を回収し、集積所まで持ち込みます。

3) 廃油回収事業

月2回のペースで、町内のガソリンスタンドの廃油回収缶や、飲食店から廃油を回収しています。集めた廃油を軽油に再生し、「あぐりパワーアップ号」で利用しています。

4) 菜の花プロジェクト協力事業

播種作業などに協力しています。

環境パートナー池田

【活動目的】

池田町環境向上計画の素案を提案した「100人のパートナー会議」が母体となり、計画策定後の環境行動実践団体として設立されました。一人ひとりが意識を変え、行動を替えることで、「ほんとうの豊かさ」を実感できるまちづくりを目指し、住民主体の環境行動を促すことを目的に、普及・啓発・実践活動を続けています。

【概要】

設立:平成15年6月 会員:47名（理事8名）

【活動内容】

1) 環境広報紙「かえる通信」発行

池田町内の環境に関する情報を、行政や関連団体、個人活動も含めて集約して掲載。毎月15日の定期発行で、町内全戸を対象に配布しています。

2) エコポイント事業

通常のポイント流通管理の他に、行政サイドの環境事業や商工会・農協と連携して、様々なキャンペーンの企画を行い、地域通貨的側面と環境行動とを連携させたまちづくりの仕掛けを発展させています。

3) 環境学習会事業

関連環境団体と協力し、「いけだ環境町民集会」の企画・運営を行っています。

4) その他環境行動実践事業

資源回収や、視察研修、環境学習オリエンテーリング等の企画・運営を行っています。

まちおこし 21 環境部会

【活動目的】

池田町内のまちづくりを学習し、実践していく組織です。その中で環境部会は、主に自然環境の保全活動を中心に、毎月 21 日に定例会を開いて、実践活動を続けています。

【概要】

設立：平成 11 年 12 月 会員：7 名

【活動内容】

1) 川クリーン大作戦

足羽川の上流、水源地のまちの責務として、春の雪解けの時期に、町内一斉の河川清掃を、区長会に提案し、町全体の環境保全活動として実施しています。

2) セイタカアワダチソウ撲滅運動

池田町の生態系を壊す恐れがあると危惧されるため、町民や他の環境団体に呼びかけて、10 月中旬頃に一斉駆除を実施。平成 15 年より始めたこの大作戦は、まちおこし 21 が調査した町内の分布図を基に実施し、2 年目の平成 16 年には多くの箇所が目立たなくなっていることが確認でき、大きな効果を上げています。

3) 水生生物調査

子どもたちを対象に、水生生物で川の水質を調査、魚の生態の学習、かまぼこ板レースなどの川遊びを通して、池田町の川や水に親しむことを目的に実施しています。近年は、公民館の環境学習とタイアップして実施しています。

特定非営利活動法人農村力デザイン研究所

【活動目的】

時代とともに社会が見失い見過ごしてきた、貴重な価値と魅力の多くが農村に残っていると考えると同時に、この価値と魅力を社会づくり、人づくり、自分づくりの燃料や装置に取り戻そう、活かそうと考えています。

そして、この農村が有する貴重で多様な価値と魅力が発する機能を「農村力」と呼ぶこととし、「農村力のエネルギーを学ぶ場」「農村力をデザイン（構想）する術を学ぶ場」「出会い、発見、交流からの自分づくりの場」とする、『日本農村力デザイン大学』の運営と、農村力の調査・研究を目的として設立されました。

【概要】

設立：平成 17 年 4 月

【活動内容】

- 1) 日本農村力デザイン大学の企画・運営
- 2) 池田町内の農村力調査・研究



あゆみの会

あゆみの会では、平成8年ごろから、環境問題についての活動に取り組んでいます。たとえば、町民のゴミ分別状況の調査、ハッピートレイの回収、ボカシづくり、廃油石けんづくり、幹線道路のポイ捨て状況の調査、環境標語募集などを行ってきました。

便利さと快適さを求めると同時に、増え続けるゴミ問題は、本当に深刻になっていると痛感します。今一度、生活を見つめ直し、正しいゴミの分別・減量を考えていく必要があると思っています。今後も、身近な問題を取り上げていきたいと思っています。

池田清掃ボランティア I S V

平成17年に発足。町内での環境美化で、公共施設や広場などの気になるところを、草刈り、ゴミ拾い、木の手入れなどできれいにしているボランティア団体です。

池田町アメニティ活動推進員

大自然からの恵みの山菜料理、先人の知恵から生まれた伝統料理、文化の薫り高い行事料理。地元の人間にとっては特別なものではなくても、素晴らしい価値を持った池田の「食」という宝を、実際につくったり食したりする体験を通して、次の時代へとつなげていく活動を行っています。

池田町商工会

エコポイント事業における協賛商店のとりまとめなどで協力しています。

池田町振興開発課・環境向上推進室

池田町役場の中で、環境向上基本計画実践のために、課を超えて組織された「エコトピア推進チーム」を母体として環境向上推進室が設立されました。主として池田町の環境条項実践のための企画や、環境関連団体とのパイプ役となってきました。環境向上活動が軌道に乗り始め、平成18年に振興開発課に統合。

池田町地域活動連絡協議会

町内の母親クラブ5団体の代表で組織されていて、幼児・青少年の地域における教育・育成活動について、情報交換などを行っています。教育や環境問題などの関連する分野について、県内のセミナーに参加したり、リサイクルバザーを行ったりしてきています。

池田ファーマーズクラブ

平成13年の春に、町内の若手農業者が集まり結成しました。毎月定例会を開いて情報交換をしています。活動としては、農地保全活動や米の品質アップ、転作等の勉強会の開催、イベントでの農作物販売などです。池田のこれからの農業について考えながら、いつも楽しく活動しています。

池田町農林公社

平成6年に池田町と福井池田町農協が出資して設立。農地保全や土づくり事業、担い手育成事業、地域資源循環型農村づくり事業、交流・教育事業、特産品育成・研究事業などを行っています。また、こっぽい屋の事務局もここにおかれています。

101匠の会

「ゆうき・げんき正直農業」実践農家の組織。福井市のアンテナショップ『こっぽい屋』へ出荷しています。会員数は、個人が173名、団体が11団体加入。個人の家族の笑顔のためにと作ってきた「正直野菜」を、まちの人たちの笑顔のために、毎日安全・安心な野菜作りに取り組んでいます。

木まま倶楽部

最初はログハウスづくりから始まった、町内外の仲間で作る楽しい人の集まりです。春にはネマガリダケを採りに行ったり、夏には蛍を見に行ったり、キャンプファイヤーをしたり、秋にはそば打ちをしたり、冬には雪灯籠を作ったり、雪で滑り台を作ったりと、子どもたちも交えて楽しんでいます。

JA婦人部

営農講座を開催したり、花いっぱい運動に参加したりして、協力しています。



池田町アクセスガイド



福井県

池田町への交通手段

自動車利用

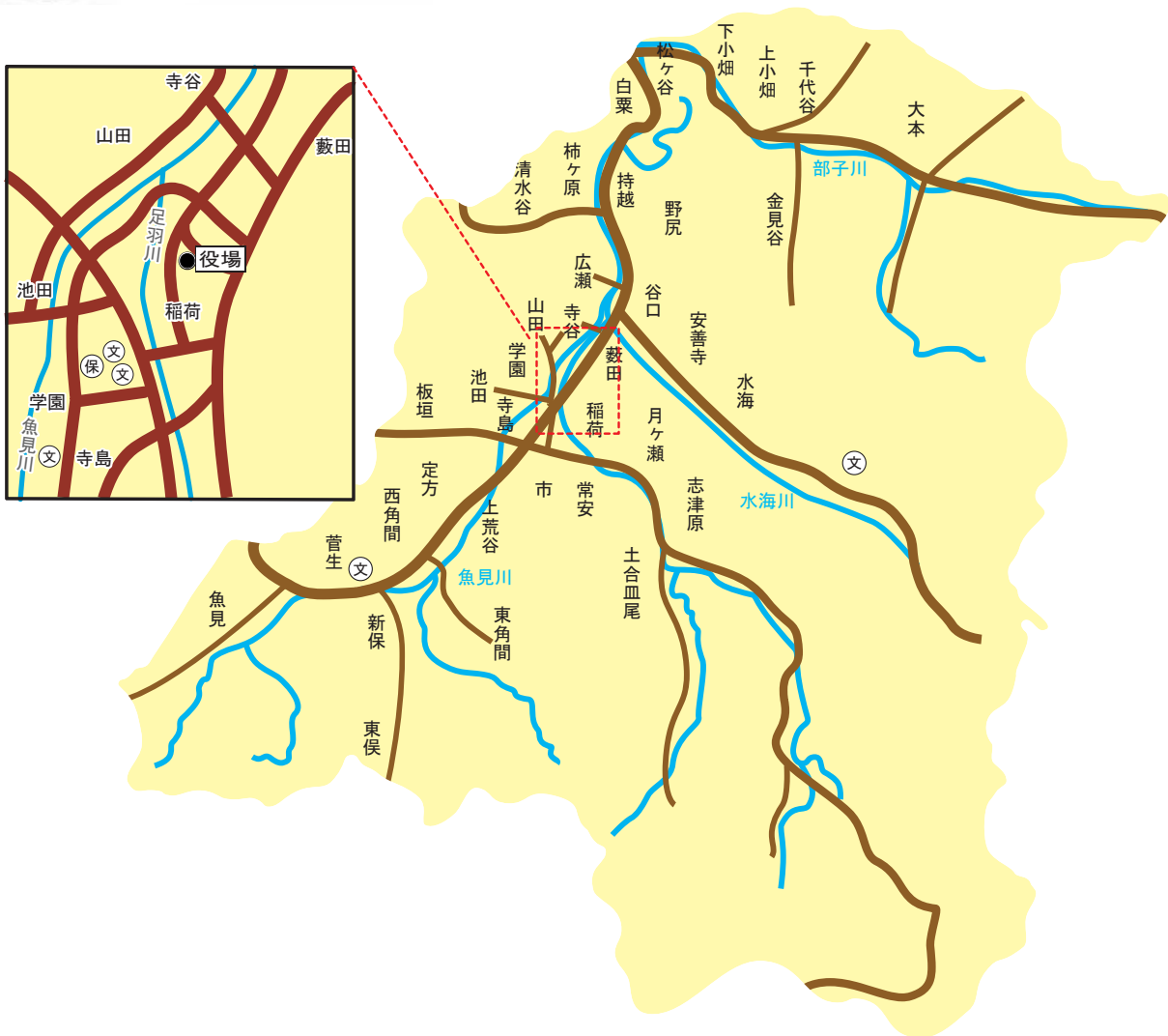
- 北陸自動車道 福井I.C から約40分
- 鯖江I.C から約30分
- 武生I.C から約30分

バス利用

- 福鉄バス武生から約1時間
- 京福バス福井から約1時間

鉄道利用

- 東京から武生駅まで約4時間
- 大阪から武生駅まで約2時間
- 名古屋から武生駅まで約2時間



池田町観光ロードマップ





池田町歳時記

1月	正月 成人式 消防団出初式 左義長		はなびらもち 寒茸
2月	能面祭り (6日 須和阿須疑神社) スキー・そり大会 ばいもしょ (13日 鶺甘神社) 水海の田楽能舞 (15日 鶺甘神社) 志津原お面さんまつり (17日 白山神社) かるた大会	除雪	あずきがゆ
3月	卒業式 ねはんだんご クリーン大作戦	雪囲い外し	おしゃか団子 ぼた餅
4月	入学式 池田カップ少年野球大会	荒おこし、しろかき ゆたて、ゆあげ	ふきのとう 冠泉
5月	冠山開山祭 (第3日曜日)	田植え 山菜採り	山菜 ほうばめし スダケ
6月	池田大祭 (9~11日 須和阿須疑神社) 小学校資源回収	牛の放牧、アユ釣り	アユ
7月	各地区の夏祭り (~8月)	溝切り	
8月	池田の地西国 (10日)	川遊び、そば蒔き	ミディトマト
9月	各集落の秋の祭礼 (~10月) 敬老会	稲刈り	新米、おはぎ ちんころいも
10月	いけだエコキャンドル 板垣の名開祭 能楽の里池田マラソン	そば刈り取り しめ縄づくり	アケビ
11月	中学校資源回収 町民文化祭 (第1土・日)	雪囲い	新そば すこ
12月	山祭り (9日) スキー場安全祈願祭 大本のみそぎ (31日~元旦)	もちつき 報恩講	しし肉 熊肉

はなびらもち：寺島区の郷土料理。直径20cmの白持ちで、菱形のあずきべしを巻いたもの。

あずきがゆ：能面祭の時に振る舞われる、あずきと赤米のかゆ

おしゃか団子：ねはんだんごの団子蒔きの団子。硬くなったものを持ち歩くと、蛇にかまれないと言われる。

ゆたて・ゆあげ：雪が解けた頃、各地区で行われる用水路の清掃

ほうばめし：きな粉をかけた熱々のご飯を、ホウの葉で包んだもの。お弁当用。

スダケ：クマザサのタケノコ

ちんころいも：小さなジャガイモを、皮ごと甘辛く炊いたもの

すこ：赤ずいきの茎の甘酢漬





受け継がれゆくものたち

とけはじめた雪の間から、ふきのとうが顔をのぞかせます。

緑薫る風が吹きはじめると、軒先にツバメの巣ができています。

光る川、流れゆく雲、ざわめく梢、虫の音、鳥の声…。

今の池田町がこうしてあるのは、代々にわたって受け継がれてきたからです。

そして私たちもまた、そうあれかしと、受け継いでいこうとしています。

池田では縄文時代の石器も発掘されています。7千年以上もこのまちは続いているのです。

また、鎌倉時代には、平家の落人がこの地に姿を消したという言い伝えもあります。池田を語る上で欠かせない能面も、このころの作のものが残っています。

北条時頼が雪の中で立ち往生し、池田にとどまった折から始まったと言われている「水海の田楽能舞」は、800年ものあいだ、変わることなく現代に続いています。

自然、そして文化、時代が移っても変わらないことの素晴らしさを、伝え続けていきたいと、私たちは願っています。



かずら橋

足羽川上流に架かる天然のシラクチカズラで作られたつり橋。

高さ 12m の橋の真ん中に立つと、水源に近い上流の川特有の、少し速い清流の音が、川によって作り出された天然の反響板に響き渡ります。

龍双ヶ滝（日本の滝百選）



池田町役場から 15km ほど、福井県大野市に近いところにある滝。60m の高さから扇状に流れる豊富な水は、冷たく澄んでいます。

冠山（21世紀に残したい自然百選）



標高 1256.6m のこの山を越えると、岐阜県美濃地方。昔から美濃との交流には、この山の峠が使われたと言われていました。かつては多くの人が行き交った山ですが、今なお美しい自然が残り、人々が山を大切にしていたことが伺われます。

水海の田楽能舞（国指定重要無形民俗文化財）



北条時頼が諸国を行脚していた折り、雪のため、余儀なく水海で越冬することになってしまい、時頼を慰めるため、村人が田楽を舞って歓待し、その御礼にと、時頼が能を舞いました。そのときから、毎年 2 月 15 日には、田楽 4 番、能舞 5 番を舞う「田楽能舞」が行われるようになったといわれています。



農村力を活かした地域資源連結型のまちづくり

発行日 平成18年9月20日

発行者 環境パートナー池田

編集協力 池田町役場 振興開発課

〒910-2512 福井県今立郡池田町稲荷 35-4

TEL (0778)44-8004



この宝を、未来へ。

iked a
池田町
福井県